

女子サッカー部HP <http://www.shobi-u.ac.jp/jrosf/>

第21回全日本大学サッカー女子選手権大会



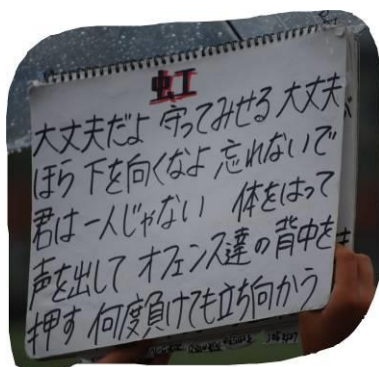
3年連続での出場となる第21回全日本大学女子サッカー選手権大会が、12月26～29日に兵庫県三木総合防災公園、1月4日に味の素フィールド西が丘サッカー場で準決勝、1月6日に国立競技場で決勝が行われた。今年からトーナメント制になり、尚美は1回戦シードを手に入れた。尚美は1回戦山形大学に8-0で勝ち上がった静岡産業大学と対戦。静岡産業大学はブレナスチャレンジリーグに所属す

る強豪である。しかし、尚美は“国立のピッチに立ちたい”という夢に向かって、ここまで辛い練習やしんどい試合を越え、「超☆全員サッカー」を胸に尚美が『革命』を起こそうと4年生を中心にやってきた。26日(水)に日ノ本学園短期大学、27日(木)に神戸FCとの練習試合を経て、モチベーション・コンディション共に上がってきた状態で28日(金)の初戦に臨んだ。この日はあいにくの雨だったが、全員のモチベーションが高かった。

試合開始のホイッスルがなり、ついに始まった。尚美は緊張からか少し動きが硬かった。すると、前半10分左サイドを崩され、早くも失点を許す。切り替えてプレーをするが、相手ペースで試合が進んだ。悪い流れのまま前半23分、34分に失点。前半を0-3と折り返し、もう一度気持ちをリセットして後半に臨んだ。しかし、後半開始早々混戦から失点を許す。ここで悪い流れを変えたのが途中交代で入った選手だった。前半に途中交代で入った1年:藤村が後半12分に同じく後半途中交代で入った右サイドハーフの4年:池田のセンタリングを冷静に決めて1-4とする。後半28分にも、後半途中交代で入った2年:高塚が右サイドからのアーリークロスを決めて、2-4とし、流れは一気に尚美へ！ここから尚美の猛攻撃で相手ゴールに畳み掛ける。しかし、相手も必死に守りなかなか追加点が入らない。尚美は最後までゴールを目指した。点を取るしかない尚美は前線に人数をかける。相手はカウンターで一気にゴールへ。すると後半ロスタイム混戦のこぼれ球をミドルシュートで決められ、2-5。試合終了のホイッスルが鳴るまで、ピッチ・ベンチ・応援団誰一人諦めていなかったが、このまま試合終了。国立のピッチに立つ夢は今年度も叶えることができなかった。しかし、間違いなく1年かけて成長してきた証とい



4年:小田



える。大きな目標としてきた『インカレ』は終わってしまったが、今年度はまだ公式戦が残っている。インカレで成長を止めるのではなく、もっと強くなるために前に進まなくてはならない。わざわざ兵庫まで応援に駆け付けてくれた人々や、いつも支えてくれる周りの人々への感謝の気持ちを忘れず、尚美学園大学女子サッカー部は来年度のインカレ制覇に向けて走り出す。なお、今大会の優勝校は日本体育大学、準優勝は早稲田大学。

本当に応援ありがとうございました！

第5回 埼玉県サッカー協会会長杯

12月16日、埼玉県のNo.1チームを決める大会が行われた。

関東リーグ所属の3チーム（武蔵丘短期大学・浦和レッズユース・尚美学園大学）と県リーグ優勝チーム（東京国際大学）、県選手権優勝チーム（大東文化大学）の5チームでのトーナメントで、初戦は武蔵丘短期大学との対戦となった。尚美は5年連続出場をしているものの、いずれも初戦敗退と、一度も決勝へ進んだことがない。今年こそは、と臨んだが、序盤から相手ペースで試合が進む。ダイレクトパスを使ったパスワークを見せる相手に苦戦を強いられ、前半21分先



制点を与えてしまう。相手の攻撃を必死に守り、全員でゴールを目指す尚美だったが、前半22分、44分と失点し、前半を0-3で折り返す。

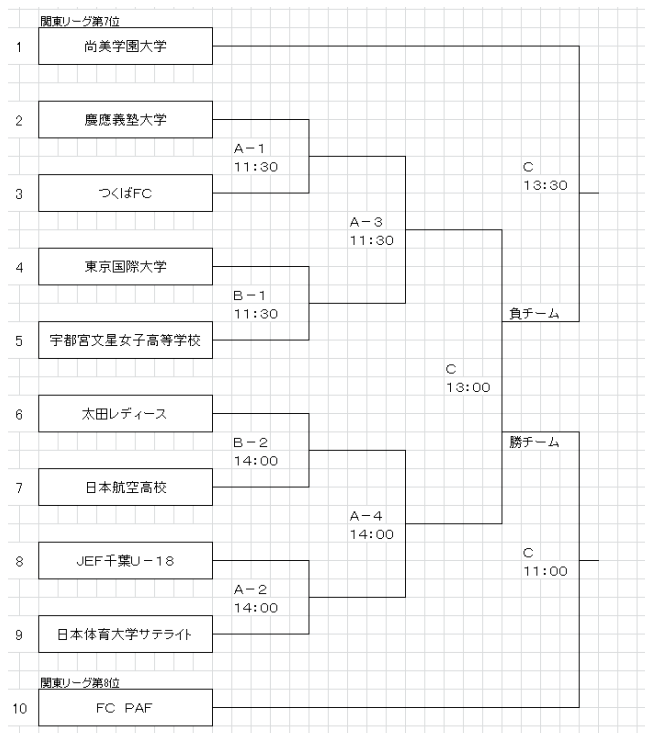
切り替えて臨んだ後半、勝負をかけた一進一退の攻防が続く。DF陣は必死にゴール前を守る。攻撃陣もゴールを目指し続けた。しかし、後半33分失点。最後まで走り続けたが0-4で試合終了した。決勝進出はまたもおあずけとなった。この日で何人かの4年生が学生最後の公式戦となったが、有終の美を飾ることはできなかった。しかし、最後まで闘う姿は目に焼き付いた。残る公式戦は入替戦のみ。シーズン最後の試合こそ勝利で終わりたい。笑顔で終わりたい。なお、今大会も決勝は浦和レッズユースと武蔵丘短期大学で浦和レッズユースが昨年に引き続き優勝を収めて終了した。



4年生大好き！

第19回関東女子サッカーリーグ 入れ替えトーナメント大会

2012年度最後の公式戦となるのは関東女子サッカーリーグ（通称：関東リーグ）の入替戦だ。この大会は関東各都県の代表チームがトーナメント戦を行い、勝ち上がった2チームと関東リーグの下位2チームが入替戦を行い、2013年度の関東リーグ参戦チームを決めるものだ。尚美は一昨年、この大会で優勝を収め関東リーグへの参入を決めた。しかし初めての関東リーグは苦しい試合が続き、結果8チーム中7位で臨んだ入替戦では引き分けで残留を決めた。今年度も昨年より勝ち点は重ねたもののリーグ7位。質の高いチームをつくるためには関東リーグでの経験は欠かせない。チームが強くなるために、何としてでも残留しなければならない。3試合を勝ち上がってくるチームは自信と勢いがある。シードで迎えるトーナメント戦はどんな番狂わせが起こってもおかしくない。それに対して尚美はどれだけ万全の準備ができるか。戦いはすでに始まっている。



編集後記

インカレが終了し、目指していた国立の舞台には立てませんでしたが、まだまだ尚美は成長の段階だと感じました。たくさんの課題が見つかり、良い経験になりました。本当にありがとうございました。そして、今シーズン残るは入れ替え戦だけです。4年生の最後、勝って笑って終わりたい！と思います。応援よろしくお願いします！尚美学園大学女子サッカー部 2年 高塚 英厘加